

＜参考＞ 高潮浸水想定区域図作成における前提条件と活用

高潮による浸水の危険性に対する認識を高め、日頃からの備えなどへの活用を目的とする基礎資料として公表しています。

高潮浸水想定区域図の前提条件

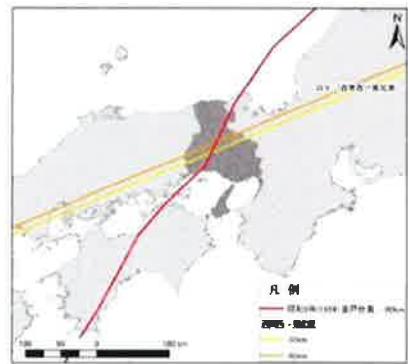
高潮浸水想定区域図は下記の想定で作成しています。

① 台風の規模

- ・ 台風の中心気圧は、これまでで最大規模（室戸台風規模）の910 hPaで、上陸後も勢力を保ったまま移動します。
- ・ 台風の移動速度は伊勢湾台風級の73 km/hとしています。（移動速度が速いほど、潮位の上昇が大きくなる傾向にあります）

② 台風の経路

- ・ 「過去に高潮被害をもたらした台風経路を平行移動する方法」と「過去の台風の経路にとらわれない方位別の経路を平行移動する方法」により、潮位の上昇が大きな3経路を選びました。



選定した台風経路

③ 河川の流量

- ・ 河川を流れる水の量は、概ね100年に1回程度の降雨を想定した量としており、既に整備されている洪水調節施設（ダム等）の効果を考慮しています。

④ 潮位

- ・ 台風期の大潮の平均満潮位（T.P.+0.9 m）に、異常潮位（0.143 m）を加えた高さから、上記のような条件で想定した台風による上昇分を上乗せした海面の高さです。（TP：東京湾における海面の基準となる水位）

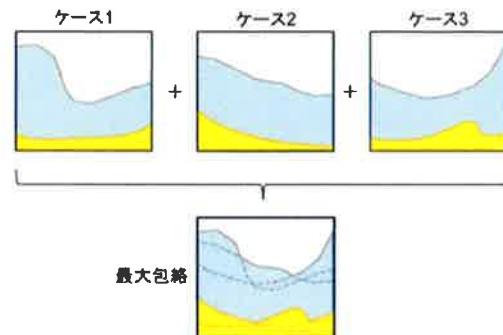
⑤ 堤防の破壊

- ・ 防潮堤等は、その施設を設計する際に用いた条件を超えた段階で破壊することとし、周辺地盤の高さと同様の地形になると想定しています。（水門や陸閘等も周辺の堤防の破壊と同様に扱っています）

⑥ 結果の重ね合わせ

- ・ 複数経路（3経路）によるそれぞれの浸水結果を、各地点において最大となる浸水

の深さが表示されるように、重ね合わせて作成しています。



重ね合わせのイメージ

高潮浸水想定区域図の活用

【内容】

「浸水想定区域図」は浸水範囲と浸水深さを示しています。

浸水深さ 0.~5 m : 1階床高に相当 3~5 m : 一般的な家屋の2階が浸水



【使い方（案）】

浸水深さが大きい区域では、2階等へ避難しても、それ以上に浸水する可能性もあることから、立ち退き避難（水平避難）を検討してください。